

# ころんぶすりハビリ新聞

## ドローンから学んだつなぎ役

リハビリ 阿部太哉

こんにちは、ころんぶすり理学療法士の阿部です。この間、ドローンをやってきました。みなさん、ドローンって知ってます？おぼけじゃないですよ(笑)。最近、問題視されていた、ラジコン飛行機です。ラジコン飛行機とちよつと違っているのは、カメラが付いているので、まるで飛行機に乗って、上空から撮影したような動画が撮れるんです。なぜ、僕がドローンをやってみようと思ったかという、単純に、おもしろそうだったから(笑)です。とある知り合いの方に、「ドローンやってみたいんですよ！」と言ったら、「それなら、ドローン協会の会長がいるから紹介するよ。」と言われ、せっかくなので体験してみました。ドローンの凄

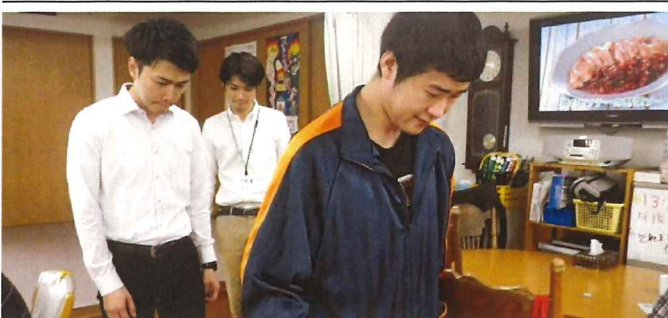
いところは、上空150mまで飛ばせます。もつと凄いのが、法律で上空150mと決まっています。本気を出せば、1km以上操縦できるようでした。スゴイですよ。おもしろそうだから、趣味にしよう！と思いましたが、経費が意外とかかるので、今、考え中です(笑)。子どものオムツ代とドローン代と天秤にかけると、簡単に決断はできません(笑)。いずれにしても、ドローンという新しい経験ができて良かったです。今回のように、僕と、ドローン協会の会長さんをつなげてくれる人がいると、本当に助かります。つなぎ役がいなければ、僕の新しい経験はありませんでした。



介護現場でも、つなぎ役は本当に重要です。この間、ころんぶすりに、素敵なお客さんがいらっしやいました。仙台リハビリテーション病院のスタッフの皆様がころんぶすりに来てくださいました。仙台リハビリテーション病院から退院された洪谷さんの利用開始に伴って、洪谷さんの入院中のリハビリの内容を教えていただきました。病院のリハビリの先生方がデイサービスに来てつなぎ役をしてくださるのは本当にあ

りがたいことです。なぜ、つなぎ役が必要かというと、「見えない不安を取り除く」ためのです。例えば、僕のドローンの様に、ドローンやりたいけど、どうやってやればいいのか？法に触れることは無いのかな？など、不安なことがたくさんあって、なかなか一歩が踏み出せません。これと同じように、洪谷さんにとっても、いろいろな不安があると思います。ころんぶすりにこれから行くのかなあ？、何をしてくれるのかなあ？、どんな人がいるのかなあ？、不安な一杯です。逆に、スタッフもいろいろな不安があります。どんな入院生活を送っていたのかなあ？、どんなリハビリをしてきたのかなあ？、危険なこととかあるのかなあ？、など、お互いに、見えない不安は、たくさんあるわけです。その見

えない不安を解消してくれるのは、つなぎ役の、リハビリの先生方のアドバイスです。入院中の生活を教えてもらったり、注意する点を教えてもらったり、話しを聞いていくうちに、スタッフも安心します。洪谷さんも、自分のことを代弁してくれるリハビリの先生方と一緒にころんぶすりスタッフと触れ合えば、こんな人達なんだなあ、と安心します。もちろん、書類で情報をいただくことも、読んでわかることと、わからないことは表面的なことだけ、お互いの安心感までたどり着かないとがあります。今回のように、入院中、関わっていたリハビリの先生方が来てくださること、入院中の生活や、洪谷さんの性格や、今後の方針などなど詳しくわかり、お互いの安心感が生まれます。実際に、洪谷さんのころんぶすり生活も、もうすぐ1ヶ月が経ちます



が、少しづつ慣れてきて、新しい目標もできあがりました。杖を卒業し、今度は逆に、仙台リハビリテーション病院のリハビリの先生達に会いに行つて、杖を卒業した姿を見ていただくとうと計画しています。先生方、楽しみにしててくださいね！仙台リハビリテーション病院のリハビリの先生方、お忙しい中、来て下さり、本当にありがとうございました。阿部